

全国救急隊員シンポジウムが浜松市で開催

救急企画室

救急隊員シンポジウムとは

「第20回全国救急隊員シンポジウム」が、財団法人救急振興財団と浜松市消防局との共催により、2月2日（木）と3日（金）の2日間にわたって、市政100周年を迎えた浜松市（アクティシティ浜松）で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、その他関連する医療従事者等、救急業務に関係する者を対象として、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的として開催されています。本シンポジウムは、救急救命士制度発足間もない平成4年度より毎年1回、救急振興財団と全国の各消防本部とで共同開催されており、今年で記念の20回を数えました。



放射線における基礎知識と被ばく傷病者対応時の留意点

今回のシンポジウムの内容について

浜松市での開催となった今回のシンポジウムは、「20年の歩みをこれからの救命の決意に!! ～二十歳の誓いを浜松から～」というテーマを掲げ開催されました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を今後活かすために設定された「災害時における救急業務のあり方」や「放射線における基礎知識と被ばく傷病者対応時の留意点」には、特に多くの救急隊員の関心を集めていました。

市民公開講座では、AEDの普及啓発活動に取り組んでおられる川崎真弓氏を講師に迎え、「『命のバトン』をつなげよう」と題して、心肺蘇生法やAEDを使った救命処置の必要性について講演が行われ、多数の方々がその講演に真剣に耳を傾けていました。

また、スキルトレーニングI「CPCR（心肺脳蘇生法）」では、基本手技の重要性について講義があったあと、実際に参加者がトレーニングを行い、救急救命士が維持



CPCR（心肺脳蘇生法）

しなければならぬ、「匠の胸骨圧迫」とは何かを科学的な解析で学習し、その習得に必要なフィードバック方法を体感していました。

救急業務を管理する立場の職員向けに開催された「救急業務管理講座」では、病院長という立場でチーム医療を実践されている昭和大学病院の有賀病院長から、救急救命士という病院前救護の専門職を抱える消防機関の救急業務管理者が果たさなければならない責務について講演があり、会場は立ち見がでるほどの盛況ぶりでした。



救急業務管理講座

地元関係者の熱心な取組

当シンポジウムは、浜松では滅多に降らない雪（吹雪）にも関わらず、会場には6,000名以上（2日間延人数）が来場し、大変盛大なシンポジウムとなりました。

これは、主催者である浜松市消防局、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあたられるなどご尽力の賜物であるといえます。

今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第21回全国救急隊員シンポジウム」は、平成25年1月24日（木）及び25日（金）の2日間、岡山県岡山市において開催される予定です。